



さんちだより

荒川区立第三日暮里小学校

発行日 令和4年1月11日

発行者 校長 末永 寿宣

1月号

学校目標
考える子
たくましい子
思いやりの
ある子

三日小の若手教員育成

～授業で指導力を鍛える

校長 末永寿宣

教員は、失敗に学びながら成長していくものですが、特に若手教員は、まだ経験の少ない段階で対処困難な事例にぶつかり、自信をなくしてしまうこともあります。それを防ぐためには、周りの先輩教員が若手教員の力量を考えながら、日常的に課題解決や悩みの解消を支援し、成長をサポートすることが何より効果的であることは言うまでもありません。その原動力となるのが、指導力です。子どもたちに分かりやすい授業を日々展開する弛まぬ努力にかかっています。

本校では、先輩教員が、若手教員に積極的に関わり、それらを継承し、学校全体の人材育成を進めていく役割を担っていくことを目指し、授業で指導力を鍛えています。

12月に実践した若手教員育成研修の様子をお伝えいたします。



▲2年生／算数「長い長さをはかって表そう」／30cmのものさしを超える長さはどうしたらよいか？話し合いながら、試行錯誤を繰り返し考える授業を展開しました。



▲4年生／図工「バンドランド」／段ボールのバンドを材料として、イメージする世界を表現しました。



▲2年生／体育「まと当てゲームを楽しもう」／ボールゲームの簡単な規則や簡単なボールの操作、ボールを持たない時の動き方を知って、誰とでも仲良く運動することを目指します。



▲4年生／社会「江戸の文化を伝える浅草」／江戸の文化や伝統を生かしたまちづくりの取り組みを調べ、気づきや疑問を話し合うことで、伝統的な街並みづくりへの思いや願いにも注目させる授業でした。



三日小の国際交流 ～海外の子どもたちとの交流スタート

今年度より、西オーストラリア州アルバニーの郊外に位置する町「リトル・グローブ」にある公立リトルグローブ小学校の5・6年生の「日本語専攻クラス」です。今年度は、12月と2月に予定しており、来年から3～4回交流する計画です。

今後3年間、オーストラリアの小学生と三日小の5年生が、文化と言語の交流を通じて、友好関係を築くために取り組んで参ります。



▲オンラインで初めて相手校の先生方とお話ししました。荒川区から現地までは、約 8,189km です。時差は1時間ですので、お互いにストレスなくアクセスできました。左上が校長先生、真ん中が日本語クラスの担任の先生、右上が現地スタッフの方です。



▲交流校が発表されると、5年生の子どもたちから歓声が上がりました。英語の授業の一環で、オーストラリアのパブリックスクールとオンラインで交流できることは、貴重な体験となります。



▲この取り組みは、両校の児童が互いに相手国の言語を用いて、コロナ禍においても、オンラインによるコミュニケーションを図り、互いの国や文化に興味をもち、友好関係を築くことを目的に実施しています。



▲英語を学んでいる本校の5年生の子どもたちが、オーストラリアの交流校とオンラインで交流を始めました。相手校の子どもたちは、日本語を第二外国語として学習している4年生から6年生の小学生です。



▲三日小の子どもたちは英語で「Hello!」、リトルグローブ小の子どもは「こんにちは」と笑顔であいさつしました。一人一人自己紹介をした後、学んでいる英語で発音に注意しながら、相手国の文化や最近の様子を聞いたり話したりしました。



▲オンラインで交流したオーストラリアの子どもたち全員へ、クリスマスカードを作成

し、国際郵便で送ることにしました。相手校の6年生は、12月末に卒業してしまうため、まずは電子データをインターネットで送付し、現地でプリントアウトし、本人に渡してもらいました。カードそのものは、後日現地の先生から手渡しとなります。グループごとに交流しているので、相手校の子どもたちと名前呼び合い、親しくなって、今後も交流が続くことを願っています。